

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between the duration of mothers' digital media use while with their children and two-year-old children's development from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

母親が子どもと一緒に過ごす時のデジタルメディア使用時間と2歳児の神経発達との関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名:福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Scientific reports

年: 2025

DOI: 10.1038/s41598-025-87430-9

筆頭著者名: 尾形優香

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

母親が子どもと一緒に過ごす間にデジタルメディア(携帯電話、タブレット、パソコンなど)を使用することと子どもの神経発達との関連は、まだ十分な検討がなされていません。本研究では、母親が子どもと一緒に過ごす間のデジタルメディア使用時間と2歳児の神経発達との関連を検討しました。

方法:

母親が子どもと一緒に過ごす間の一日あたりのデジタルメディア使用時間は、1)なし、2)1時間未満、3)1時間以上2時間未満、4)2時間以上の4群に分類しました。2歳の子どもの神経発達は、新版K式発達検査2001を用いて、姿勢運動、認知適応、言語社会の3領域と3領域を合わせた全体的な発達を評価しました。3,786人を対象とし、重回帰分析を用いて、母親のデジタルメディア使用時間と子どもの神経発達の関連を検討しました。

結果:

母親が子どもと一緒に過ごす間にデジタルメディアを使用していない群と比べて、1時間以上2時間未満使用している群(偏回帰係数: -3.07)、2時間以上使用している群(偏回帰係数: -5.24)で、言語社会領域の発達指数が有意に低いことがわかりました。また、2時間以上使用している群(偏回帰係数: -2.07)では、全体的な発達指数も有意に低い結果でした。1時間未満であれば、有意な結果は認められませんでした。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、母親が子どもと一緒に過ごす間にデジタルメディアを1日1時間以上使用した場合、2歳児の言語発達と負の関連があり、2時間以上使用した場合、全体的な発達とも負の関連があることがわかりました。幼い子どもがいる母親にとってデジタルメディアの使用は、他者との交流、感情のコントロール、孤独の緩和など有益なものでもあります。1日1時間未満の使用であれば、子どもの神経発達との関連は認められませんでした。本研究の限界は、デジタルメディアの使用時間は母親の自己申告によるものであり、客観的測定方法に基づく検討が求められます。また、子どもの成長に伴う長期的な関連についてはさらなる検討が必要です。

結論:

母親が子どもと一緒に過ごす間にデジタルメディアを1日1時間以上使用することは、子どもの言語発達と負の関連が認められました。特に2時間以上の使用は、子どもの全体的な発達とも負の関連があることがわかりました。一方、1時間未満の使用であれば子どもの神経発達との関連は認められませんでした。